



平開ま収第455号

平成20年10月7日

国土交通省道路局長 殿

小平市長 小林 正則



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

日頃、小平市政にご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

平成20年9月19日付、国道企第37号によりご依頼があった、今後の道路行政についての意見・提案を、別紙のとおり提出いたします。

◎ 補助要件の緩和等

当市では都市計画道路の新設整備にあたり、補助メニューを探するのに苦慮しているのが実情である。

面的な補助メニューとして、「まちづくり交付金」などがある。まちづくり交付金の導入を検討してみると、当市では公民館・図書館などの公的施設は整備済みの地域が多く、セッとなる事業が見つけにくい。また観光地ではないため、指標(来客数など)を設定することが難しい。「まちづくり交付金」は5年間の限定とされているが、短期間で目に見える成果を挙げにくい事情がある。道路単独の整備に対する補助としては、街路事業や臨時交付金などがある。街路事業は国道に準ずるネットワーク等としており、採択要件が厳しい。臨時交付金については、採択要件はあっても、補助の予算枠に限られており、配分が厳しい状況と聞いている。

このため、「まちづくり交付金」を5年以上継続可能とすることや、臨時交付金など道路単独事業の補助要件の緩和・補助枠の増などを願いたい。

○現状

- ・当市は東京都内の近郊住宅地で、農地が相当の面積で残っている。鉄道駅が7駅あり、それぞれの駅周辺に一定の商業集積等がみられるが、いずれもまちの核となるほどの規模ではない。
- ・小平市の都市計画道路の整備率は平成19年度末で、37.5%である。
- ・近郊住宅地であることから住宅需要は高く、農地が年々宅地化される傾向が続いている。
- ・鉄道駅が多いことで利便性が高い反面、踏切による交通渋滞などが生じている。また、小平駅北口・小川駅西口など駅前広場の未整備の箇所が残っている。

○課題

- まちの中心がないままポテンシャルが分散する状態になっている。
- 多摩地域の平均整備率52.6%と比較しても低く、都市基盤整備の遅れが目立つ。
- 都市基盤整備が進まないまま個別開発が繰り返されており、スプロール化が進んでいる。
- 鉄道の存在がまちづくりの進展にとつてのポイントである。駅前再開発、鉄道立体化が必要であり、道路整備費の増大や事業の長期化を招いている。

東京2000年構想では、小平市は「武蔵野の緑や農地に囲まれ、適度な大きさの中心市街地を有するまちで活発なまちづくりが展開されていく」エリアに位置づけられており、小平市第3次長期総合計画では、「住みやすく希望のあるまち」をめざして、区画整理事業や、駅前再開発事業、都市計画道路整備事業を計画的に進めている。

市としては今後の10～20年の間に重点的に都市計画道路の整備を進めると考えている。
現在進めている小平市内の都市計画道路の整備については、平成18年4月に東京都と多摩28市町で策定した「多摩地域における都市計画道路の整備方針」、第3次事業化計画（平成18年度～27年度）の優先整備路線（6路線）の整備を目指している。第3次事業化計画以降の整備計画については東京都と協議を行い進めていく。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④
東京都小平市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	小川駅西口の駅前再開発	駅周辺の活性化、土地の有効利用が期待できる	再開発準備組合により調整中
都市交通の快適性、利便性の向上	小平駅北口の駅前再開発	駅周辺の活性化、土地の有効利用が期待できる	検討中の段階
	小平3・4・10号線及び21号線の整備 (小川西町四丁目・五丁目他)	一部整備済みの2路線をつなぐことで、防災性向上や土地の利用増進を図る	19年度に事業認可
	小平3・4・23号線の整備	東大和市側、立川市側(一部)は整備済みで、地域間のアクセスが向上する	事業認可を目指して、説明会に入った段階
	小平3・4・19号線の整備 (小平駅北口～東久留米市境)	東久留米市側は一部整備済みであり、地域間のアクセスが向上できる	駅前再開発とあわせ、検討中の段階
	小平3・4・10号線の鉄道立体化 (小川西町四丁目～府中街道)	既存の踏切の渋滞解消、鉄道による地域分断の解消	優先整備路線ではなく、今後の課題